

新校舎、始動！ ～自主自律の風をまよって～



令和5年11月より新校舎での授業が始まりました。



会報第68号

宮城県宮城第一高等学校同窓会

会長 東海林 弘子

所在地 仙台市青葉区八幡一丁目6番2号

電話・FAX 022(261)7855(同窓会専用)

E-mail info@miyaldousoukai.com

振替 02290-2-5964

同窓会会報編集委員会

印刷 仙台市青葉区春日町8番34号

創文印刷出版株式会社

同窓会会員の皆様には、常日頃より母校に対する温かいご支援をいただき、心より感謝いたします。昨年度に引き続き皆様方の母校の校長を務めさせていただきまして、で、よろしくお願いいたします。

さて、学校ですが、四月に二百八十名の新入生を迎え入れ、全校生徒八百三十三名で令和六年度が始まっています。令和四年度から募集

を始めた国際探究科と理数探究科も全ての年次で揃い、普通科とともに新生宮一がスタートしています。また、昨年の十一月に新校舎への引越しが終わり、県内有数の施設・設備を誇る環境の下で、生徒たちは充実した学校生活を送っています。来年度には、テニスコートとグラウンドが整備され、全ての工事が完了します。是非、新しくなった母校の見学がて



ごあいさつ

校長 佐藤 浩之

さて、この一年間の同窓会活動を振り返ってみますと、三月に『会員名簿』の発行、六月の幹事会並びに九月の総会での新校舎見学会の実施、そして各支部総

最後になりましたが、会員の皆様のますますのご健康とご活躍を祈念申し上げます。ご挨拶いたします。(高16回)



同窓の輪を未来に

同窓会会長 東海林 弘子

会の開催等、ほぼ予定どおりに行事を遂行することができました。名簿発行に際しましては各回のクラス幹事の皆様を始めとして多くの会員の皆様のお力添えをいただきました。また、新校舎見学会では明るく教育環境の整った新校舎を興味深く見学する多くの会員の姿が見られました。一方、昨年度の会計決算書を拝見しますと、同窓生の年会費納入状況が芳しくなく、会

計が逼迫していることが気がかりです。同窓会活動は皆様に納入いただいた会費を基に運営されています。皆様、機会がございましたらお近くの同窓生に会費納入の一声をお掛けいただけますようお願い申し上げます。

令和 6 年度 同窓会総会 未来へつなぐ！ 学び、集う喜び

9月7日(土)、令和6年度同窓会総会が宮城県宮城第一高等学校新校舎の真新しい大講義室(300人収容)にて開催されました。様変わりした学び舎に驚きの声が絶えない中、来賓19名を含む185名の参加があり、盛会となりました。

今年は二部構成での開催となりました。第一部の総会は守末佳奈さん(高52回)の司会で進められました。はじめに、総会準備委員長の田村智恵さん(高52回)が、同窓生、関係者の方々の尽力により総会を開催できたことへの感謝を述べました。



次に同窓会会長の東海林弘子さん(高16回)の挨拶があり、その中で同窓会の会費収入が激減していることが話され、会費納入の呼びかけがありました。挨拶に続き、亡くなられた先生方及び同窓生の方々に黙祷を捧げました。

続いて、佐藤浩之校長からのご挨拶がありました。新校舎完成の喜びの中で、生徒たちがいきいきと学校生活を送っていること、様々な個性が育っていることが話されました。

その後、新役員の方と来賓の先生方が紹介され、議事に入りました。菅野一枝さん(高22回)が議長を務め、令和5年度行事報告・会計決算報告及び監査報告・令和6年度行事予定案・会計予算案についての協議が行われ、全議案について拍手をもって承認されました。

フルートと箏の演奏
アトラクションでは、早坂道子さん、阿部恵利子さん、田村智恵さん(いずれも高52回)による演奏が行われました。「絆、つながり、ご縁」をテーマに選曲した



という「愛のあいさつ」「糸」など五曲が演奏されました。柔らかな調べに会場全体が聞き入り、最後の「ふるさと」では自然と大きな拍手が沸き起こりました。閉会にあたり、出席者全

員で校歌斉唱を行いました。フルートと箏の伴奏に合わせ、歌声と共に、久しぶりに校歌を歌う喜びが会場に満ちていました。



新しい校舎を見学

総会終了後、第二部として新校舎見学会が行われ、一階から四階まで自由に校舎の中を見学しました。土曜日でしたが定期検査を控



えた在校生が自主学习をする姿があり、すれ違う際は気持ちのいいあいさつが交わされていました。

見学会後も、旧友や恩師との再会を喜ぶ歓声が絶えず、先生方からのメッセージコーナーでは、出席できなかった学友に見せたいと、写真を撮る方もいました。

演奏者の声

阿部恵利子

高校時代の歌合戦。ステージ上でフルートを吹く早坂道子さんの姿が、臉の裏に焼き付いています。

田村智恵さんは、言葉を交わしたことはありませんでしたが、格好良くて、目立っていた印象です。

そんな「格好良い二人」と、二十五年後に合奏をするとは、夢にも思いませんでした。

練習は複数回行いましたが、練習だけで終わった日はありません。それぞれが、悩みや日常の大変さを抱えていました。お互いを励まし合いながら、数ヶ月に及

ご出席の先生方 (順不同・敬称略)

客員(旧職員)

石澤 浩二 牛坂 律子

加藤 徳善 穀田 恵子

金野 和男 佐々木 均

佐々木正弘 佐藤 典郎

島倉 透子 東海林弘子

鈴木 文雄 富永 明

特別会員(現職員)

佐藤 浩之 飛鳥 貴

菅野 淳一 永沼 幹子

西澤 朋子 狩野わか子

山路 雪乃

ご準備期間を過ごしてきました。

本番後には「この三人で演奏できて良かった」と、全員が感じて終わることができました。

友達や先生との再会だけでなく、演奏を喜んでくださるたくさんの方の笑顔に囲まれて、幸せな役回りでした。ご清聴ありがとうございました。



田村智恵さん 早坂道子さん 阿部恵利子さん

卒業生総数 三万三千七百八十六名

★新入会員 (高76回生267名)

クラス幹事

一組 阿部 環 齋藤 咲希
二組 阿部 真奈 三浦 具晃
三組 浦生 葉月 瀬戸 七望
四組 菅澤 真花 三浦 早貴
五組 阿部 壹吹 高橋 琉
六組 齋藤あおい 長岡あおい
七組 大内 快人 森谷 心羽

★役員異動

今春の教職員異動による
ご栄転に伴い、山本博教頭
が顧問を、中田理恵子さん
(高42回) が校内幹事を退
任され、新しく菅野淳一教
頭を顧問に、能登美樹子さ
ん(高35回)を校内幹事に

会の動き



出席者にインタビュー

関 恵美子さん(高18回)

新校舎をご覧になっていかがですか？
「新校舎は素晴らしいね。うらやましい。私の時代は雨漏りするような木造校舎だったのよ。正面玄関が神社みたいで、そこに掛かる懸魚(けぎょ)は思い出に残っているわね」

★常任幹事会・幹事会

お迎えしました。

六月八日(土)午後一時

より母校秋桜館柔剣道場において幹事会が開かれました。会長挨拶・校長挨拶の後協議に入りましたが、昨年度決算報告では、会員の年会費納入状況が芳しくなく会計が逼迫していることが報告されました。協議事項はそれぞれ提案どおり承認されました。その後、恒例の講演に代えて新校舎見学会が実施され、体育館を始めて新装成った各教室を興味深く見学しました。注目の大講義室見学会からの見学となりました。幹事会に先立って第一回常任幹事会が午前十一時より

高校七十五回生のお孫さんがいらっしやる関さん。宮一生としてお孫さんとの共通点は？
「やはり自由なところかしらね。孫は剣道部でしたが茶髪にしていたので、大会がある日は朝四時に起きてスプレーで髪を黒くしていましたよ。歌合戦の前には衣装がないかと聞かれたこともあったわね。私たちの

り秋桜館会議室で行われました。

★『会員名簿』発行

「新校舎落成記念」と冠した『会員名簿』が三月二十五日発行されました。今回の発行に当たっては各回クラス幹事の皆様、最新の情報をお寄せくださったすべての会員の皆様を始めとして多くの皆様のお力添えをいただきました。本名簿により会員同士の親睦と絆とが一段と深まることを願っております。残部が少しありますので購入ご希望の方は事務局までご連絡ください。

なお、名簿発行の会計処理は本年度会計にて行いますので、ご報告は来年度になります。

令和5年度宮城県宮城第一高等学校同窓会会計決算書

自:令和5年4月1日 至:令和6年3月31日

【1】基本金 収入

科目	予算	決算	増減	摘要
繰越	7,772,137	7,772,137	0	
雑収入	363	136	-227	預金利息
合計	7,772,500	7,772,273	-227	

<別途> 東北電力株 864株×1,196円=1,033,344円(令和6年3月29日)

科目	予算	決算	増減	摘要
経常費へ繰入	900,000	1,900,000	1,000,000	
雑費	0	33,770	33,770	『会員名簿』用写真
次年度繰越	6,872,500	5,838,503	-1,033,997	
合計	7,772,500	7,772,273	-227	

【2】経常費 収入

科目	予算	決算	増減	摘要
繰越	350,755	350,755	0	
同窓生	2,800,000	1,433,880	-1,366,120	
年会費	504,000	496,800	-7,200	600円×828名
新入会員	280,000	267,000	-13,000	1,000円×267名(高76回生)
総会参加費	0	0	0	参加費無料
基本金より繰入	900,000	1,900,000	1,000,000	
雑収入	15,245	83,661	68,416	利子、配当、寄付等
合計	4,850,000	4,532,096	-317,904	

支出

科目	予算	決算	増減	摘要
1.事業費	2,835,000	2,467,849	-367,151	
1)総会諸経費	900,000	988,069	88,069	総会案内、準備委員謝礼
2)会報発行費	1,400,000	1,083,657	-316,343	会議費、印刷費、発送費、会報委員謝礼
3)会議費	200,000	46,367	-153,633	幹事会案内はがき、講師謝礼等
4)奨学費	260,000	282,480	22,480	学友会補助、卒業証書ホルダー、入会のしおり
5)支部助成費	75,000	67,276	-7,724	東京1万円、他5,000円×11支部、手数料
2.事務局費	1,952,000	1,772,844	-179,156	
1)人件費	1,300,000	1,281,400	-18,600	事務員給与
2)旅費交通費	100,000	7,040	-92,960	支部総会出席
3)慶弔費	100,000	54,712	-45,288	支部総会祝儀、離任式花束
4)通信費	50,000	47,646	-2,354	電話料金、切手はがき
5)備品費	50,000	0	-50,000	
6)消耗品費	50,000	111,818	61,818	事務用品等、コピー機トナー
7)資料整備費	22,000	12,100	-9,900	卒業アルバム代
8)情報システム費	260,000	241,848	-18,152	HPDメイン管理、ルーター等、システム追加
9)雑費	20,000	16,280	-3,720	ゆうちょ通知手数料
3.予備費	20,000	0	-20,000	
支出計	4,807,000	4,240,693	-566,307	
4.繰越	43,000	291,403	248,403	
合計	4,850,000	4,532,096	-317,904	

★支部総会・懇親会

- ・東京支部 5月26日
ハイアットリージェンシー東京 69名
- ・塩釜支部 6月15日
ホテルグランドパレス塩釜 16名
- ・札幌支部 6月22日
プレミアホテル中島公園 8名
- ・岩沼支部 7月7日
レストランスカッシュ 18名
- ・石巻支部 8月18日
石巻グランドホテル 19名
- ・岩手支部 10月27日
アイトホテル盛岡 12名
- ・大崎支部 11月4日
仙南支部 11月30日
仙南シンケンファクトリー 13名
- ・福島支部 11月9日
レストラン Le Village 10名
- ・関西支部 11月9日
ホテル阪急インターナショナル 7名
- ・レストランスギヤマ 9名

ときは歌合戦ではなく、予餞会といってクラスごとに劇をしたのよ」
今でも一女時代の友人と定期的にお会いになるといふ関さん。
当日も同期生のご友人と会話に花を咲かせていらっしやいました。

佐々木 均先生(数学)
平成二十二年にご退職、一年ほど講師をされた後は悠々自適にお過ごしだといふ均先生。当時の一女高について伺いました。
「二女生はみんな生き生きと自主的に動く姿が印象的でした。今日の質疑応答でも声を上げて活発に意見が交わされる様子はさすがだなと。そこが一女の素晴らしいところだと思います。皆が一律になりがちな時代だからこそ、生徒が変わっても一女高の個性はこれからも残ってほしいですね」とにこやかに話してくださいました。

今も同窓会室に残る懸魚



特別教室にはガラス張りの展示スペースがあり、それぞれの特徴が表れています。

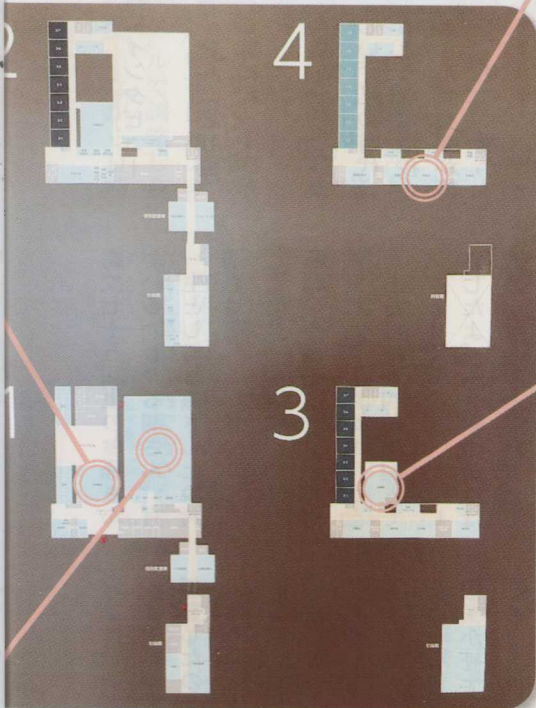
母校訪問

受け継がれる伝統

新校舎を見学いたしました。
綺麗で明るい校舎には、生徒たちの眩しい笑顔があふれていました。



自然光がたくさん入る明るい図書室です。



校内のバリアフリー化も進んでいます。



新校舎にも中庭は健在。部活動のパフォーマンス等にも活用されています。

栄光の記録

(令5・9・11 令6・8・31)

●運動部

陸上競技 ▽新人大大会 (男子) 二〇〇m

H 三位、四〇〇m H 三位 (女子) 四〇〇

m H 三位、二〇〇〇m 障害三位、走高跳

四位 (以上東北大会出場) ▽県春季大

会兼団体予選 (男子) 一〇〇m H 一位、

三〇〇m H 二位 (女子) 走高跳三位 ▽県

総体 (男子) 四〇〇m H 二位 (女子)

一〇〇m H 三位・六位、四〇〇m H 三位、

五〇〇〇m 競歩六位、走高跳六位 (以

上、東北大会出場)

山岳 ▽新人大大会 団体男子一位、団体

女子二位 ▽県総体 団体男子一位、団

体女子二位 ▽東北大会 団体男子四

位、団体女子三位 ▽インターハイ 団

体男子二位

弓道 ▽新人大大会 (女子) 個人近の一

位 (全国選抜大会出場、射道優秀二位

▽東北選抜 (女子) 個人近の六位 ▽

県総体 (女子) 個人近の六位 (東北選

手権出場)、射道優秀一位

ソフトボール ▽第37回県総合選手権大

会二部女子 優勝 ▽県選抜大会 三位

▽第51回東北総合スポーツ大会宮城選抜

チーム二名参加

●文化部 その他

放送 ▽第71回NHK杯全国高校放送コ

ンテスト県大会 朗読部門 優良賞

文学 ▽第38回全国高校文芸コンクール

小説部門 優秀賞・優良賞、詩部門 優

良賞、短歌部門 優良賞 ▽第20回県高

校文芸作品コンクール 小説部門 最優

秀賞・優良賞、詩部門 優良賞、短歌部

門 優秀賞・優良賞 (3)、部誌部門

最優秀賞 ▽第14回角川全国短歌大賞

特選 ▽第19回全国高校生短歌大会 (短

歌甲子園) 出場 ▽第24回原阿佐緒賞

奨励賞

生物・地学 ▽第76回県高校理科研究発

表会 優秀賞 (3)

人物往来 (敬称略)

★退職 (令和6年3月31日)

館 節子 平28 数学
三浦 学 令2 地歴 栃木県へ
浅野 靖子 平27 英語 青森県へ
増田 正明 令3 事務部長

★転出 (令和6年3月31日)

山本 博 令3 教頭・地歴 仙台三桜高へ
菅原 健久 平29 化学 泉館山高へ
中田理恵子 平29 主幹(図書) 塩釜高へ
菅澤 昭博 平29 主任技師 秋保かがやき支援校へ
(令和6年5月31日)
三塚 富貴 令4 事務次長 古川支援校へ

★転入 (令和6年4月1日)

菅野 淳一 教頭・音楽 仙台東高から
能登美樹子 英語 仙台一高から
小澤 裕子 生物 宮城広瀬高から
村上亜希子 地歴 柴田高から
若生 拓実 化学 仙台一高から
佐藤 貴哉 地歴 気仙沼高から
熊澤 啓子 実習助手 一迫商業高から
齋藤 有美 主幹(図書) 名取高から
奥田 賢治 主任技師 多賀城高から
(令和6年6月1日) 名取支援校から
日比 智美 主査 支援校岩沼高等学園から

昇降口前の石畳には、卒業生や在校生がデザインした五種類のモチーフがはめ込まれています。



300名収容できる大講義室は、同窓会総会にも使用されました。



3箇所にある秋桜ラウンジは、様々な用途に使用され憩いの場ともなっています。



2024年度 大学入試等合格者数一覧 (過卒者を含む)

大学名	人数	大学名	人数	大学名	人数
旭川医科大学	1	東北工業大学	22	日本社会事業大学	8
帯広畜産大学	1	東北福祉大学	27	日本歯科大学	3
弘前大学	3	東北薬科大学	21	日本獣医生命科学大学	1
岩手大学	5	宮城学院女子大学	26	法政大学	1
東山大学	9	仙台白百合女子大学	2	武蔵野大学	4
宮城教育大学	10	東北文化学園大学	6	武蔵野大学	5
秋山大学	4	尚絅学院大学	7	明治大学	1
山形大学	40	東北芸術工科大学	2	明治大学	3
福島大学	5	国際医療福祉大学	6	明治大学	2
茨城大学	1	獨協医科大学	1	立教大学	3
宇都宮大学	2	浦和学院大学	1	立教大学	2
埼玉大学	2	文教大学	4	麻布大学	2
千代田大学	2	日本医科大学	2	神奈川大学	6
お茶の水女子大学	1	東京国際大学	1	関東学院大学	1
東京外国語大学	1	神田外語大学	1	東京工業大学	1
東京大学	1	千代田大学	3	金沢大学	2
東京大学	1	青山学院大学	2	愛知大学	1
横濱国立大学	2	桜美林大学	1	同志社大学	2
新潟大学	3	学習院大学	1	立命館大学	4
金沢大学	2	立里大学	4	私立大学	1
信州大学	1	共立女子大学	2	防衛大学校	1
岐阜大学	1	杏林大学	3	水産大学校	1
奈良女子大学	1	慶應義塾大学	4	華严大学	2
奈良女子大学	1	芝浦工業大学	14	仙台医療福祉大学	7
岩手大学	3	順天堂大学	3	東北労働看護大学	2
宮城県立大学	18	昭和女子大学	2	医療系・その他計	13
福島県立医科大学	3	昭和女子大学	2		
高崎経済大学	1	成成大学	5		
東京都市大学	3	大東文化大学	1		
横浜国立大学	1	王様中東大学	10		
神奈川大学	3	多摩大学	2		
横浜国立大学	2	中央大学	2		
国公立大学	2	東京大学	4		
国公立大学	141	東京大学	6		
岩手大学	7	東京大学	1		
石巻学院大学	2	東京大学	3		
北洋大学	137	東京大学	11		



屋根の曲線が美しい、校舎と一体化した体育館です。

美術 △第76回県高校美術展 優秀賞
書道 △第72回県高校書道展覧会 推薦
(2)・特選(6)・金賞(6) △第71回全国小中高児童生徒川開書道展 毎日新聞社賞・特選・金賞(4) △第32回国際高校生選抜書展 入選 △第75回全国学生書道展 奨励賞(4)・推薦(5)・特選(5) △第73回全日本学生書道展 読売新聞社賞 △第48回ふれあい書道展 特選(3)
ジャズダンス △第31回県高文連ダンスフェスティバル2023 優秀賞・優良賞
競技かるた △第32回県高校小倉百人一首競技かるた大会 四七位 △第30回東北・北海道高校小倉百人一首新人大会 団体優勝、個人二位 △第48回全国総文祭(きふ総文) 県予選 三位・八位(全国大会出場) △第46回全国高校小倉百人一首かるた選手権大会(かるた甲子園 県予選 優勝(全国大会出場) 華道 △第6回全国高校生花いけバトル 東北大会2023 準優勝
その他 △県高校家庭クラブ連盟研究発表大会 ホームプロジェクトの部 優秀賞 △第75回県小中高児童生徒徒作詞作曲コンクール 作詞の部 特選・優秀(2) △県読書感想文コンクール 自由読書の部 優秀賞

北六番丁から中島丁へ

高7回 柴生田 敦子

私たちが入学したのは、終戦から七年目の一九五二年（昭和二十七年）です。北六番丁は旧制第二高等学校が空襲で全焼し学制の改正により東北大として太白区の三神峯に移転した跡地です。裏手にはまだ明善寮が二棟あり馬を繋いでいた木造の小屋も残っていました。元寺小路の校舎が全焼した一女が一九四七年（昭和二十二年）此処に校舎を建てました。勿論体育館等はなく体育は空き地で、雨の日は二高の残した小屋でという具合でした。ここから一九五三年（昭和二十八年）中島丁の現在地に移転したのです。北六の地はそのあと暫くは東北農学部になり、現在は厚生病院が開設され更にイオンモールが建築中で隔世の感があります。

さて北六番丁から中島丁への移転ですが、我々は全員自分の教室での椅子を持ち、歩いて引越したのです。市電はあったとは言え車も殆ど通らないあの頃だから可能だったことで、何十人も女子高生がぞろぞろと椅子を持って移動など今なら「珍百景」ですね。



北六校舎正門

中島丁校舎は女子師範の校舎のあとで前の部分には暫くの間三女高が同居していました。木造校舎が渡り廊下で繋がり、敷地いっぱい建てられていました。



北六番丁校舎

講堂は無く舞台のある広い一室で発表会や式典がおこなわれ、また珍しい階段教室があり化学の授業を受けたものです。プールは無く従って水泳の授業は無し。渡り廊下の途中には売店があり岩井おばさんからジャムをはさんだコッペパンを買ってお昼ご飯にしたものでした。校舎の間に中庭がありました。

戦後間もない時代でしたがそれなりに、私たちは青春を謳歌し充実した高校生活を送れたと懐かしく思い出しております。

懐かしき中島丁

高8回 堀籠 節子

足下から川の流れが見えるような古びた澱橋を渡り尚綱の坂を登って中島丁をまっすぐに、目指すは歴史ある宮城師範学校女子部の校舎、これが中学時代まで十年間、私の通った通学路でした。

そして、昭和二十八年、北六番丁の一女高に入学、意欲十分で新たな通学路を通い始めました。ところが驚いたことに、附属中学と一女高が校舎を交換することになり、なんと半年もたたないうちに中島丁に逆戻りし、再び懐かしい古びた校舎に通学することになったしまいました。結局私は十三年間、中島丁で学生生活を送ることになったのです。

中島丁には当時、宮城師範学校女子部の附属女学校と言われた三女高があり、ここから

一女高、三女高の同居時代が始まりました。校門を入るとまず三女高の教室があり、細長い廊下を奥に進むと一女高の教室があり、壁に空いた穴から隣の教室が見えるという、古い木造建築二階建ての校舎で、私の高校時代はスタートしたのです。

三女高は一学年一学級の小規模校、一女高は一学年六学級の大世帯、それなりに当時は多々問題もあったと思うのですが、音楽室など特別教室や体育館は共同で使われ、体育大会など学校行事では様々な交流もあった三年間だったと記憶しています。

そして、思いもしなかった縁というか、四年後、新任教師として赴任

したのが長町に移転した三女高だったのです。思えば、女子師範付属校、一女高、三女高と、中島丁を人生のふるさととして、一筋の道を歩んだ感慨ひとしおの私です。

そして今、老齢の身の散歩道、八幡一丁目は、八十年前とはすっかり様変わりして、目指す一女高は近代建築のモダンな校舎、その窓から覗く男子生徒の姿を眺めながら隔世の感に浸り、新たな宮城一高の将来に、昔々の卒業生として大いに期待を寄せたいと思っています。



一女高と三女高の門標が掛けられた中島丁校舎正門

女子高ならではの充実した高校生活 「貴重な体験の数々」

高26回 山田 久美子

この度、「特集・思い出の学び舎」の原稿を依頼された時に、五十三年も前のことなのに、一女での様々な場面が、ショートストーリーのように思い出されました。

しかしながら、どれも一瞬なので、確認のために、五十年以上付き合っている一女の同期生三人に、「一女の思い出」を聞いてみました。

制服の自由化・修学旅行の廃止・秋まで



校舎をバックに「ど根性ガエルのTシャツ」を着て

入學早々、昭和四十六年六月一日の高校総体の開会式に向けて体育の授業はマスゲーム一色でした。練習の時間も場所も無いマイナス要素ばかりで、全校生同時スタートという厳しい状況の中、一年生の私たちは目を白黒させながら上級生に

一所懸命ついていった記憶があります。宮城野原での練習は一回だけでしたが、本番に強い一女高生は、有終の美を飾ることができました。あの頃ドロインがあったら良かったのに！ とつくづく思います。

当時の一女高生は、普段は個人個人がつかず離れずの良い距離感で行動しているのですが、体育祭や文化祭等で、クラス対抗となると突然一致団結します。各々の長所を見つけ、適材適所に役割を振り分けて、楽しみながら、優勝を目指します。リーダーはいないけれど、自主自律した個々がバランス良く担うのです。お揃いの「ど根性ガエルのTシャツ」は青春の思い出。懐かしいです。

みんなが生き生きと希望を持ち、女子高ならではの学校生活を満喫した三年間でした。

「僕たちだけの、」

高76回 三浦 具晃

大学生生活が始まって三か月が過ぎ、高校生活が少し懐かしくなってきた今、この寄稿のお話を機に少し思い出してみようと思う。

僕たち七十六回生と校舎といえば、プレハブ校舎について語ることを避けては通れないだろう。

令和三年四月に入学し、令和五年十一月に新校舎が完成するまでの二年七か月間、高校生活のおよそ九割をプレハブ校舎で過ごした。かわいそうに

と思われるかもしれないが、僕は個人的にはこの校舎がかなり好きだった。ロの字型の造りになっ

ていて窓が多くあり、陽の光がよく差し込んでいた。壁が薄く、隣の教室の音が響いてきたし、夏の暑さと冬の寒さには堪えたけれど、まさに、空色によっていろいろな表情を見せてくれていた。

思えばコロナ禍真った

だ中の高校生活だった。所属していた演劇部の活動や伝統の歌合戦の練習の時には、窓を開けて外に向かって声を出した。歌合戦本番は、演奏する学年だけが体育館に入り、他の生徒は教室からオンラインで見守った。秋桜祭は、プレハブ校舎の耐久性の面からも、在校生と保護者以外は入ることができなかった。さまざまな制限があったけれど、僕たちの高校生活は常にプレハブ校舎とともにあり、隣に徐々に造られていく新校舎のように僕たちは成長していった。そんな僕たちの青春が詰まったプレハブ校舎は、もうないらしい。仮設の校舎としての役目を十分に全うしたのだから、どこか寂しいような気もする。母校を訪れ、校舎を見て



回って当時を懐かしむということができないうだ。でもこれはきっと悲しいことばかりではない。今はない分、当時をともに過ごした友達と思いつく楽しみがあるように僕は思う。プレハブ校舎で過ごした時間というのは、この伝統のある学校の歴史全体からすると一瞬のような時間で、でもその一瞬には僕たちだけの三年間が詰まっている。

年を重ねて再び集ま

た時には、プレハブ校舎での僕たちだけの高校生活の思い出を酒の肴にでもしようと思う。

各回だより

卒業六十年

喜寿を迎え

高17回

令和六年六月二十五日の
仙台の空は雲におおわれて
いましたが、重たい感じて
はありませんでした。

一女卒業六十年・年齢喜
寿という記念の年を迎えた
高校十七回生三十九人が、
誰に会えるだろう、お互い
に顔がわかるだろうかと思



弾ませながら、アンティ
クな装いのホテルモントレ
十七階に集まりました。

ひと通りの挨拶が済み、
中華料理と聞いていたから
タインテールかなという
予想とは違った(シノワズ
リ)中華を愉しみながら、
いよいよ、それぞれの近況
を聞く貴重な時間が始まり
ました。

親やパートナーの見送り
や介護、自身の体調不具合
や不安……それぞれの事情
により違いはあっても、ど
なたもへこたれていない。
へこたれるどころか、自分
のスタイルをしっかり確立
して、さらに仕事に趣味に
芸術活動に向きあっている
その姿からはがんばる力を
もらいました。

別室には、出席できな
かった方たちのものも含
め、絵画や折り紙、本など
の作品が展示されました。
友達の貴重な足跡です。

最後に校歌を歌って(一
女再現)のひとときを締め
ることができました。

会終了後、希望者で新装
なった母校を訪れ、先生の

ご案内で見学。校舎に昔の
面影はまったくありません
が、広い階段教室に感動し、
歴史を物語る展示物に感心
し、部活動だったのではし
うか、図書室にいた男子生
徒が質問にハキハキ答えて
くれたことに好感度はアッ
プでした。

年齢的にみて、大勢に声
をかける同期会はこれが最
後かも、という思いで準備
会は始まったのですが、
別れの言葉は「さよなら」
ではなく「またね」でした。

(笹川智恵子)

「古希らんまん」

けやき会

高24回

東京でけやき会を始めて
二十六年、昨年十月二十一
日で十四回目。ほぼ二年ご
とに開催していたのです
が、六十八歳の年はコロナ
の影響で集まれず、四年ぶ
りにめでたい古希の集まり
となりました。幹事が集
まった時に放送されていた
朝ドラが「らんまん」。個
性豊かな仲間たちがそれぞ
れ古希の花を咲かせている
ことが目に浮かび「古希ら
んまん」と題したけやき会



第14回けやき会

を開くことにしました。

銀座のレストランに
三十七名の花が集結。七十
歳まで生きるの「古来
稀なり」とは古い格言で
す。少々満開は過ぎていて
もみんな若々しくいきいき
しています。高校時代の顔
写真と誕生日の花言葉を載
せた葉書を一人ずつ用意し
て、それにまつわるスピー
チをしてもらいました。さ
すが！ みんないつもな
がら一分にまとめて上手
に話します。けやき会お

閉会後話し合い、今後ま
たコロナのような事態が起
きると大人数で集まるのは
難しいので、今回を最終回
とすることにしました。と
ても残念ですが、これから
は小さな集まりを方々で開
き、五輪の輪のようにつな
がっていければと思ってい
たら、さっそく集まったと
いう話が聞こえてきまし
た。これからも「プチけや
き会」の花があちらこちら
で爛漫と咲き続けること
でしよう。(武田美夕里)

決まりの出し物は、
幹事によるマッスル
パフォーマンスと全
員でやる古希こき体
操。手作りの肉糺裃
で上腕筋モリモリの
幹事が指導します。
会場が暗くて助かり
ました(笑)。もう
一場面はガラリと変
わって、歌が得意な
二人によるお祝いに
びったりな曲の独唱
とデュエット。仙台
と兵庫から駆けつけ
てくれた二人が、美
声で祝宴を盛り上げ
てくれました。最後
は全員で歌う校歌で
お開き。

単 同期会

OG・OB会

- ・高12回1組 10月31日
- ・秋保温泉ホテル瑞鳳 10名
- ・高14回 5月10日
- ・かに政宗本店 28名
- ・高16回 6月20日
- ・仙台国際ホテル仙台なだ方 28名
- ・高22回 10月18日
- ・江陽グランドホテル 68名
- ・高25回 10月26日
- ・ホテルJALシティ仙台 88名
- ・高30回 8月31日
- ・藤崎ケヤキカフェ 30名
- ・高34回 6月1日
- ・早稲田デパートホール 70名
- ・高35回 9月15日
- ・DUCCA仙台駅前店 87名
- ・己道部 3月23日
- ・母校己道場いわま亭 13名
- ・バレーボール部 11月3日
- ・母校秋桜館 30名

北から南 (敬称略)

佐々城 洋(客員)

瑞宝小綬章

関 義昌(客員)

宮城県文化の日表彰

水戸 洋子(高28回)

仙台短編文学賞

プレスアート賞

小山 尚美(高30回)

杜のみやこ工芸展

受賞・受章・表彰



二十四年ぶりの再会

高52回

九月七日土曜日、新校舎へと生まれ変わった母校の大講義室での同窓会総会の後、仙台駅前の「田なか屋本店」にて高五十二回生同期会を開催しました。同期会を企画してくれた元ソフ

トボール部のメンバーは高校時代の自身の顔写真を首に下げ、受付からしっかり盛り上げてくれています。企画当初は五十名と見越していた参加者も当日はなんと八十名超。二十四年ぶりに会う同期生たちも多く、会場内の彼方此方で交わされる自己紹介と再会を喜ぶ声。高校当時のかしましさは今も健在であり、十代の頃と変わらぬ笑顔が溢れていました。

乾杯の挨拶は総会準備をしようと声を掛けた会報編集委員長の濱山麻子さん。「総会や会報の準備を通して新たな繋がりが生まれたことが本当に嬉しい。たくさん話して盛り上がりましょう」の声で始まりました。会場のスクリーンにはサブライズで、高校三年次の秋桜祭歌合戦の映像が映し出され、十八歳の若かりし姿に皆が大興奮。会の最後には同期会に参加できなかった総会準備委員長の田村智恵さんに向けて、参加者全員で「智恵ちゃんありがとう！」の動画を撮影。あつという間の二時間が過ぎ、再会を約束し会はお開きとなりました。しかしな

がら、一次会だけではまだまだ話も尽きず急遽二次会を決定することに。三十名がテンション最高潮に思い出話に花を咲かせ続けました。

今回の再会をきっかけに「これからも皆で連絡を取り合いたいね」とグループLINEを作成し、現在百四十七名が参加していま

す。同期会に参加できなかったメンバーも共有された写真や動画をみて楽しんでくれたようです。宮一卒としての誇りと出会えた友人们との絆の深さを再確認できた総会・同期会でした。次回の集まりを楽しみにしています。

(守末 佳奈)

弔意

令和六年九月末日までに同窓会事務局宛に直接お報せいただいた方です。(敬称略)

客員・高35⑥	本46	小山 光子	(小山)	高2③	吉見 信子	千賀	高8②	横山かつみ	(天友)	高16③	渡辺 茂子	渡辺
岩間 美樹 (鎌田)	本46	高木 圭子	(津田)	高3③	菊地須恵子	曾根	高8③	佐藤 孝子	(中沢)	高16⑤	植田 和子	向坂
本39 山田 さだ (本田)	本46	長谷川清子		高4④	江刺 節子	塚本	高9①	市川 桂子	(菊地)	高16⑤	佐藤 茂子	
本40 高橋 宮子 (伊勢)	本47	薄葉美代子 (斎藤)	高4⑤	兵藤登喜子	當場	高9①	佐藤 郁代 (森)	高16⑤	本田 直子			
本40 前田 弘子 (金内)	本47	増田 廣子 (武蔵)	高4⑥	山田 絵子	小林	高9②	安並美代子 (庄子)	高17①	鎌田 淳子	(鎌田)		
本41 小川ふさ子 (佐々木)	本48	川島 典子 (結城)	高5①	岡井悠紀子		高9③	丹埜 靖子	高17①	高橋千佳子	(安達)		
本41 渋谷 政子 (渋谷)	本48	熊谷 慶子 (桜井)	高5⑥	宮田 操子	成田	高10①	伊藤 光子 (早坂)	高17⑥	高橋 裕子 (札幌)			
本42 村上 あい (村上)	本48	中塚 春枝 (近藤)	高6②	七尾香世子	青木	高10①	宮崎 任子 (石津)	高18⑤	芳賀 道子 (早坂)			
本43 大沼 きみ (竹川)	本48	遊佐 榮子 (細中)	高6②	宮崎 節子 (星)	高10③	稲妻 辰子 (佐藤)	高18⑦	伊藤 範子 (鈴木)				
本43 菅原 充子 (氏家)	本50	宇留賀美知江 (佐藤)	高6④	戸田 環子 (伊達)	高10⑥	海老原清子 (伊沢)	高19④	設楽 洋子				
本43 山口 寿代 (松野)	本50	佐藤 明子 (照井)	高6④	花沢 道子 (山口)	高11③	谷平佳代子 (武田)	高21②	熊谷香代子 (宮下)				
本43 山田 良子 (丸谷)	本50	柴原 安子 (柴原)	高6⑤	新野知恵子 (楠崎)	高12⑤	穂積美智子 (北村)	高21⑦	宮下眞知子 (宮下)				
本44 吉川 了子 (山本)	本50	若林 弘子 (遠藤)	高7②	鈴木 昱子 (石津)	高12⑥	鈴木 朝子 (三浦)	高21⑧	斎藤マユ子 (真壁)				
本45 甲田 節子 (甲田)	専7	菅原 君江 (高田)	高8①	関ケイ子 (藤原)	高13④	出水 靖子 (庄司)	高22③	高橋 孝子 (高橋)				
本45 半沢 房枝 (泉)	高1	村田美喜子 (阿部)	高8②	太田れい子 (加藤)	高13⑥	小林 有子 (木村)	高28③	阿部加代子 (菅野)				
本45 湯村 成子 (章刈)	高2③	小田部道子 (佐藤)	高8②	高石 劭子 (山家)	高15②	千葉ヒデヨ (佐藤)	高32③	繁田 由美				

お詫びと訂正

会報六十七号「弔意」欄に高校三十回吉川容子様のお名前を掲載しましたが、容子様はご健在でいらっしやいます。心よりお詫び申し上げます。(事務局)

有り難う

「じいいます

岩沼支部様と高校二十七回同期会様より同窓会へ多額の寄付金を頂戴いたしました。この場をお借りして御礼申し上げます。同窓会会長

近況	個展・演奏会	出版	受賞・受章・表彰
角田 華子(高54回) 「日本一広い村」(奈良県十津川村)に移住して訪日外国人客を迎えるガイドとして活躍	藤田 祐子(高44回) 仙台弁護士会会長に就任	大槻 幸子(高17回) わ紙ドール展 日本のお美	東北放送賞 外崎 浩子(高31回) 宮城県文化の日表彰 中野久美子(高33回) 瑞宝単光章 蜂屋ひろみ(高38回) 河北美術展 審査員奨励賞(洋画) 遠藤 和暢(客員) 歌集「近景」 齊藤 裕子(高23回) 遺稿歌集 『つれづれなるままに』
	石川千佳子(高29回) 「宮崎日日新聞」の美術コラムを三十年以上執筆・掲載	「わ紙に生きる」 一関 京子(高23回) 書展「のあとさき」 高橋 麻子(高43回) ピアノリサイタル	

支部だより

あらたなスタートを切った

札幌支部

昨年十月、四年ぶりに支部会を開催しました。

その際、案内状で今後の継続的な連絡を希望するかどうかの意思確認をしました。九十二通発送し、返信があったのは五十一通、そのうち連絡を希望する方は十九名のみで、十一名はメール連絡希望でした。久しぶりの支部会には八

名が参加。嬉しいことに、遠方のせたな町と苫小牧から若い方々が初めて参加してくれました。

中島公園に隣接するホテルの二十四階にある眺めのいい和食レストランで、美味しいお料理に舌鼓を打ちながら楽しく充実したひと時を過ごしました。

私が幹事となつてから八年。幹事をどう引き継いでいこうかと思っていました。が、新たに参加してくれた若いお二人が幹事に加わり、札幌在住の二人と四人で業務を担うことにしました。支部長は置かず、本部との連絡係がその代わりを務めます。



今年の支部会は六月二十二日、前回と同じ眺めのいいレストランで開催。幹事団がメールで調整しながら日時

を決め、案内希望の方々に連絡。往復葉書での連絡が八通だけでしたので事務の負担は軽く、通信費も従来の十分の一で済みました。

参加者は八名。昨年同様、様々な話題で盛り上がり、楽しいひと時を過ごしました。帰りがけ、中島公園で花壇のボランティアをしている私が、バラが盛りの園内をご案内することもできました。

札幌支部会で、私は素晴らしい先輩・後輩の方々に会えることができました。とても感謝しています。

歴史ある宝物のような支部会を大切に引き継いでいきたいと思っています。(高28回 加藤 康子)

福島県は広いけれど

福島支部

福島支部では二年に一度、基本的に郡山市で支部総会を開催しております。ですが、コロナ禍で見合わせを余儀なくされ、ようやく昨年六月二十五日、四年ぶりに郡山市内で皆さんとお会いでき、会員七十九



ことでした。

支部総会の後は、お食事をしながらお話しに花が咲きました。ご高齢のため集えなかった大先輩たちの近況や、現在関わっておられるお仕事。そして女学生だった頃のちょっとお転婆な日常も。話していくと、同じジャンルで活躍なさっていたり、勤務先が近かったりと接点が見つかって笑顔があふれます。東日本大震災後も数度の大きい地震、洪水にみまわれた福島県。不安が無い訳ではないのですが、最後に校歌を歌いながら、変わらないものがここに在る、と改めて実感いたしました。また、支部総会の無い年には、おいでになるのが大変な会員様も参加できるように、郡山市以外でもプチ同窓会を計画しており、今年度もこれから検討いたします。小さくても楽しい集いにできたら、と願っております。

(高30回 吉越 美絵)



受け継がれているもの

大崎支部

二〇二三年十一月三日、大崎市古川のレストランスギヤマにて三年ぶりの大崎支部同窓会が開催されました。本部から東海林会長が参加され、計七名での会となりました。コロナ禍で開催できなかった間に前大崎

支部会長の栗原彩子さん(高2回)が亡くなられ、穴が開いたような気持ちを抱きつつも、東海林会長から新築校舎引越しの際出てきた六十年以上も前の生徒たちの完成度の高い生物のレポート集の話を伺い、あらためて、母校のすばらしさを確認することができました。その後、会員一人一人が、自分たちが通学していたころの校舎のこと、

今現在取り組んでいる活動などを話し、最後に校歌を歌い、久しぶりに宮城一女(宮城一高)の世界を堪能することができました。高校二十九回生の私は、前年度後期から制服が自由化されたため、私服での高校生生活スタートでした。制服を着ていた人もいましたが、ほとんどは私服でした。青緑ジャージと体育館シューズ以外で揃っていた

のは上履きのみでした。先日、秋桜館を訪れた際、見慣れたチロリアンテープの黒い上履きがきちんと揃えておかれているのを見て、半世紀経っても変わらぬ光景に驚いたので、同窓会で「変わらないこと、靴が揃えられていることがうれしかった」と伝えたところ、十回上の先輩から「制服とはいっても頭からつま先まですべて揃えなくちゃいけないって訳ではなかった」と伺い、制服であっても任されている部分があったことに妙に納得したものでした。

男女共学となり、校舎が新築され、学校は大きく変わりましたが、自主自律の精神は受け



在職時の八木英雄先生

レンズを通して社会とつながる

八木英雄先生



梅雨入りが発表された二〇二四年六月下旬、仙台市街を望むラウンジカフェに八木英雄先生(国語科)をお招きし、高三十二回生四名がお話を伺いました。さわやかなサマージャケット姿の先生は、九十一歳半

ばにして背筋はまっすぐ伸び杖もなく、徒歩でお越しになりました。国語教師として三十九年、宮城一女高には一九七五年に赴任され、ご退職までの十八年間教壇に立たれています。



さっそく卒業アルバムをご覧いただく。「懐かしいなあ」と笑顔の先生。当時の漢文の授業につ

いて記憶力抜群の一名が「漢詩のきれいな板書に始まり、現代語訳をどういふふうに受け止めるかのご解説のあとに終了のチャイムが鳴る神がかりの構成だった」と申し上げると、「私のことではないのでは(笑)」とユーモラスにご謙遜。当時の担任クラスの生徒たちは、穏やかで紳士的な先生のものとのびのびと過ごし、体育祭では、自分たちのジャージの背中に先生をスーパーマンに見立てたアップリケを付け参加しました。

学生時代の話題では、近松門左衛門の義理人情を重んじる世話物を探究し、「劇作家を夢見ていた時期もあったな」と照れる先生。宮城一女高時代は、同僚、先輩教師との語らいに刺激を受け、退職後も長いお付き合いがあり、「女房が同窓生の田島俊子先生と家族ぐるみの交流があり、三人で何回か海外旅行をした時期もありました」。ヨーロッパ各国(イタリア・オーストリア・ドイツ・イギリス・スペイン・オランダ・ノルウェー)の美術館・博物館巡りとオペラ鑑賞が主な目的です。ヴェルディ、プッチーニ、モーツァルト、マスネ、ワーグナー、ドニゼッティのオペラ作品を、ウィーン国立歌劇場ほか各地で鑑賞されました。

長年のご趣味は写真。今も週の半分はカメラ片手に市内を歩いて回り、膨大な撮影データを分野別にパソコンで整理されています。コンクールに毎月出品することが「社会との接点になっている」と先生。「撮影しながら自然と向き合うことで思索を深め、多様なものから美的価値を見出しています」と分析されました。奥さまと新聞のコラム欄を順番に朗読し書き写すことを日課とし、高齢になっ



ても社会の一員として何をすべきかを模索しながら過ごされています。同窓生へのメッセージを伺うと、「出会いには不思議、それだけが感じ受け止めて生きる力を育んでほしい」と張りのあるお声で締めてくださいました。(高32回 平塚 仁美)

ふるさとだより

歴史のまち



今年が多賀城創建千三百年を迎え、南門の復元をはじめ、様々な遺跡の調査や整備が進み、イベントも数多く行われています。

多賀城南門復元

宮城県のほぼ中央に位置する多賀城市。奈良時代には東北の政治・軍事・文化の拠点として栄えました。今年が創建千三百年の節目の年。多賀城の魅力について紹介します。

多賀城創建千三百年

「多賀城」は、養老四年（七二〇年）の蝦夷の反乱を契機として、新たな支配体制の整備のために、神亀元年（七二四年）に奈良の平城京を中心とした律令政府によって、陸奥国府として創建されました。仙台平野を一望できる松島丘陵の先端に設置され、政治的中心都市であるとともに、軍事を担当する鎮守府も置かれ、蝦夷対策を進める拠点でもありました。また、陸奥国のみならず、出羽国まで監督下におく古代東北地方の行政・経済・軍事の中心地でした。蝦夷討伐のために派遣された征夷大將軍である坂上田村麻呂と蝦夷の族長であるアテルイとの戦いは現代にも語り継がれています。



多賀城には南門・東門・西門が存在したことが明らかになっていますが、正門に当たる南門は屋根が二重になっている二重門形式の極めて格式高い門であったと推測されています。今回復元されている南門は高さ約十五メートルの木造で、屋根には奈良の業者に特注した約一万六千枚の瓦が使われ、門や柱は赤土などで朱色が施された荘厳な佇まいです。これは最も豪華だったとされる八世紀後半のものをイメージし同時代の法隆寺中門を参考にデザインされており、古代の建築技法にあわせて復元されています。本体である建屋及び門の両脇の築地（ついで）堀の工事は完了し、現在は南門から南に延び

るメインストリートである「南北大路」の工事が進められています。一般公開は二〇二五年四月を予定しているとのことですので。

多賀城碑が国宝に指定

日本三大古碑の一つ「多賀城碑」が今年、国宝に指定されました。

多賀城碑は多賀城跡南門の傍に立つ奈良時代の石碑で、江戸時代初期に発見されました。碑には多賀城から平城京などの主要な国々までの距離や、多賀城創建、改修の年が刻まれており、古代東北史を紐解く上で重要な手がかりとなりました。偽作と疑う声もありましたが、一九六三年の発掘調査により真碑と認められました。

また歌枕「壺碑（つぼのいしぶみ）」として広く知られ、松尾芭蕉がここを訪れた時の感動を「おくのほそ道」に記しています。



現在の多賀城碑は覆屋（おおいや）の格子の間から間近に見ることが出来ます。ボランティアガイドさんのわかりやすい解

説を聞くこともでき、多賀城碑が今日まで地元の方々によって代々大切に守られてきたことも窺えます。



多賀城跡あやめまつり

毎年六月中旬から下旬にかけて行われるあやめまつり。八百種三百万本のあやめが優雅に咲き誇ります。期間中の土日にはステージで郷土芸能などのイベントが行われるほか、野点、屋台の出店、勾玉作り体験など大人も子供も楽しめるイベントとなっています。



今回は古代米の五平餅作りを体験しました。古代米のしっかりとした食感がやみつきになります。アントシアニンが含まれるなど栄養価も高い古代米は市内のレストランで食べられ

る他、東北歴史博物館や多賀城駅前など市内で販売されています。

東日本大震災を経て

多賀城市は二〇一一年の東日本大震災で、大きな被害を受けました。仙石線多賀城駅の前には、街を襲った津波と同じ高さ四・六メートルのモニュメントが設置されています。



駅の北口には、復興のシンボルとして二〇一六年に多賀城市立図書館が整備され、市民の憩いの場、交流の拠点として親しまれています。また、東北学院大学の移転後の跡地には新たな街づくりが予定されています（二〇二五年十一月着工予定）。

歴史と、新しい発展を感じることが出来る多賀城市。地図を片手にゆっくり散策してみませんか。

編集後記

久しぶりに訪れた母校は、新校舎のまぶしさの中に、在校当時と変わらない景色が混ざり合っていました。特集では同窓生に学び舎での思い出を綴っていただき、場所や建物は変わっても、「自主自律」の心でいきいきと青春を謳歌する姿はいつも変わらないのだと感じます。ご寄稿くださった皆様、撮影にご協力くださった皆様に、この場を借りて深く感謝申し上げます。（濱山 麻子）

【編集委員】

【高校32回・昭和55年卒】
早坂 泉 平塚 仁美

【高校42回・平成2年卒】
稲葉 愛 黒澤 真紀

鈴木 有子
【高校52回・平成12年卒】

青木 和美 岡本 佐衣
塩田 綾夏 濱山 麻子

早坂 道子
【常任幹事】

東海林弘子 我妻 謙子
穀田 恵子 佐藤 響子

令和7年度総会のご案内

日時: 令和7年9月6日(土)
13時~(受付は12時30分から)

会場: 母校大講義室
◎校舎見学会も実施予定です。



問い合わせ先: 同窓会事務局
電話・FAX: 022-261-7855 (同窓会専用)
E-mail: info@miya1dousoukai.com
(みや1どうそうかい)

総会当番: 高43・53・63回
会報当番: 高33・43・53回